

# みこも ようちえん通信

2018

企画・編集:(株)ASO



## 入園前は ろもちゃんキッズが 断然楽しい!!

わが子らしさが生きる  
『子どもクラス』

仲間と出会える  
『親子クラス』

お友だちやママと一緒に、  
ゆっくりゆっくり慣れていく



『ろもちゃんキッズ』de一緒に遊ぼう	
●月・金曜日(子どもクラス)	9:30~11:00 (11:30)
●火・木曜日(子どもクラス)	10:30~12:00 (12:30)
●水曜日(親子クラス)	①9:30~10:30 ②11:00~12:00
●会費	・子どもクラス 4,000円/月 ・親子クラス 3,000円/月
●入会金	5,000円 ●バス代 800円/月
※()内は9月以降の終了時間	
※火・木曜日はバスの送迎があります	



自由遊び、体操、製作。おやつもあります♪  
自分で考えて行動!「ひとりでできるよ♪」

キッズ仲間が ♪

たくさんできました!

A black and white photograph shows three young children at a table, focused on their work. One child in the foreground is wearing a yellow shirt and has a small red circle pinned to their chest. Another child in a striped shirt is visible behind them. The background shows a plain wall.

未就園児クラス『ろもちやんキッズ』で、子どもたちはどうふうに過ごしているのかな？　お友だちや先生などのように関わっているのかな？　半年を経過した子どもクラスの様子をレポートしました。

取材・文／ライター 渡辺里佳

朝9時半、明るくて広々したお部屋には、お家の人と一緒に子どもたちが次々とやってきます。お部屋に入ると、スマップルを着て、出席ノートにシールを貼ります。自分で貼って、リュックも決められた場所にしまっていました。

4月のスタート当初は、ママと離れるのが悲しくて涙を流してしまおうお友だちもいましたが、半年を経過した今はすっかり慣れた様子です。フロアに広げられたおもちゃの中から、好きなおもちゃを選んで、お友だちとおしゃべりしながら遊びはじめました。

そんな子どもたちを優しく見守るのが佐々木みな先生、野口まい先生などのベテラン先生たち。安全第一に一人ひとりに目を行き届かせています。「落ち着いて遊べるようになってきました。お互いに名前を呼び合い、お友だちと楽しく関わっています」

「次は何をするのかな」  
自分の頭で考え行動します。

『ろもちゃんキッズ』は、プレ保育体験として、「親子クラス」と「子どもクラス」があり、満3歳児と3歳児からの幼稚園入園を支援しています。

A group of children in a classroom setting, focused on a science experiment or sensory activity involving various containers and materials on a table. One child in the foreground is holding a large clear plastic container with a white lid. Another child is reaching into a red basket filled with colorful items. The background shows shelves with books and educational materials, and a wall decorated with children's drawings.



みんなで手遊び！

たくさんの刺激をもらって、ぐんぐん成長します！



ンポよく進行します。「お天気のいい日は、外に出て砂場や遊具で遊ぶ日もあります。靴を履いたり脱いだり、自分でできることも増えていますよ」

取材した日は、自由遊びのあと、マットやトンネル・滑り台を並べたサークット遊びで身体を動かし、製作タイムへ。ハサミを使ってカットした紙や丸い形をシートに貼って、「くだもの列車」を完成させました。この世に産まれてまだ2～3年とは思えないほどの落ち着いた雰囲気にびっくり。先生のお話も一生懸命聞いています。「はい、次はおやつですよー。何をするんだっけ?」という言葉を聞いて、リュックから、水筒とお皿とお手拭きを出して、テーブルに並べていました。次に何をするのか、自分の頭で考えて行動できる子どもたち。みんなのお支度が揃うまで待つたり、一緒にご挨拶したり、集団生活の決まりごとも少しずつ覚えていきます。

### 集団生活に慣れて、入園がスムーズに。

あつという間に1時間半が過ぎ、終了時間が近づくと、お迎えのママたちが隣の部屋でスタンバイ。ママの顔を見たとたんに甘えっ子の表情を見せていました。しつかりさんに見えて、まだまだかわいい子どもたちです。引き渡しの際は、先生からママへ、今日やったことやお友達との関わり、子どもの様子など、丁寧な説明があります。先生は同じ年頃の子を持つベテランママなので、日ごろ感じている育児の不安や悩みも相談できるのがいいですね。

2歳児のために、このほかに毎日通園できる「いちご組」(満3歳児クラス)もあります。園児と同じ保育時間で給食もあり、最年少クラスとして園行事にも参加しています。



日常の中にひそむ危険をチェック！

# 知って防ごう、子どもの誤飲・誤嚥事故

転んだ、ぶつけた、口に入れた……などなど、小さな子どもとの暮らしあは「ドキッ」「ヒヤッ」と縁が切れませんね。

今回はどこの家庭でも起こる可能性のある「子どもの誤飲・誤嚥」について、注意したいポイントをまとめました。

お話／西武文理大学 准教授 茂手木明美先生

## 誤飲 幼児期になってもひきつづき目配りを

「誤飲（ごいん）」とは、食べ物以外の異物を飲み込んでしまうこと。誤飲事故が最も多いのは、手でつかんだものをなんでも口に入れてしまう生後半年～1歳ごろですが、それを過ぎてもまだ油断は禁物です。

子どもがどんなものを誤飲しているかというと、タバコ、くすり（飲み薬、塗り薬）、洗剤類、化粧品、ボタン電池、コイン、小さなおもちゃ（ボール、ビー玉ほか）など、どれも一般家庭の中に普通にあるものばかりです。

「我が家は危ないものはきちんとしまってあるから大丈夫」と思っても、子どもは日々成長しているので、昨日は手が届かなかったところに手が届いたり、開けたりできるようになります。マニキュアの除光液など化粧品の誤飲は、大人が使っているものに興味を持つ2～3歳ごろに多く発生しているという報告もあります。

赤ちゃん時代に比べると物ごとの分別がだいぶついてくる一方で、知的好奇心から大人が「まさか」と思うようなことをやってしまう（できてしまう）時期もあるということを、常に意識しておきたいですね。



## 誤嚥 身近な食べ物が事故につながることも

本来は食道の方に入るはずの食べ物が誤って気管のほうに入ってしまうことを「誤嚥（ごえん）」といいます。子どもはまだ咀嚼がうまくできないので、口に入れた食べ物をかみ碎かずに飲み込んでしまうことがあります。飲み込んだ食べ物が、のどの高い位置（咽頭）や気管につまると、窒息・呼吸困難などの事態を引き起こすことがあります。

誤嚥しやすい食べ物の特徴としては、「丸くてつるんとしているもの」（白玉だんご、ミニトマト、ぶどう、アメ玉など）、「かみ碎きにくいもの」（ピーナッツ、豆類、グミ、こんにゃくゼリーなど）があげられます。節分の豆やチョコレートの中に入っているアーモンドなどのナッツ類も要注意です。

意外なところでは、パンも誤嚥の危険があります。かまばこぱくっと丸のみをしてしまい、流し込もうと水を飲んだら水分でパンが膨張して、さらに詰まってしまうという事故も起きています。誤嚥事故とは無縁に思える食べ物でも、食べ方によっては窒息などの深刻な事故を招くこともあります。気をつけたいですね。



茂手木 明美 Akemi Motegi

西武文理大学看護学部小児看護准教授。医科学博士。山梨大学医学部大学院医学工学総合教育部博士課程終了。専門は小児保健、小児看護、保育学。「子どもの生活習慣と健康問題」「小児期の睡眠」「子どもの事故と安全」「子育て支援」などをテーマに教育・研究活動・研修会講師として活動している。

## 誤飲・誤嚥を防ぐ環境づくり

～禁止だけでなく子どもへの安全教育も大事

子どもの生活環境に危険がないかをチェックするのは大人の役目ですが、一方で子ども自身にも「何が危なくて、どういうことに気をつけなくてはいけないのか」ということを少しずつ学習していってもらう必要があります。

そのためには2～3歳になったら、ただ「ダメ」と禁止するだけではなく、「どうしてダメなのか」という理由説明を簡単な言葉で伝えましょう。たとえば薬に手を伸ばしてきたときは、「これは病気になったときだけ使うものだから、〇〇ちゃんは食べないのよ」というふうに真剣な表情と口調できちんと教えましょう（もちろん、一度で理解できるわけではないので、手の届かないところに保管することは大前提ですが）。

「座って食べる」「食べながらふざけない」「お箸を持って歩かない」などは、お行儀の面だけでなく、安全のためにもとても大事なことです。子どもが食事中にいすから離れてうろうろし始めたら、「歩きながら食べると危ないよ」と伝えて、「では、もうおしまいね」と食事を切り上げる。そんなふうにじめをつけていくことが、子どもへの安全教育にもつながります。

取材・文／中島恵理子

**家族みんなで確認！  
誤嚥・誤飲を防ぐわが家のルール**

**★誤飲の原因になるものは**  
子どもの手の届くところには絶対に置かない

- 直径39mm以下の大きさのものは子どもが口に入れて飲み込む危険があります。
- 特にタバコ、くすり、ボタン電池、小銭などは注意。

**★「食べる時は席について」を習慣に**  
歩きながら、遊びながら、寝転がりながら……「ながら」食べは危険です。

**★食べているときに子どもを驚かさない、大笑いさせない**  
びっくりすると人間はひゅっと息を吸い込みます。大笑いしたあとも同じです。

**★食べ物を放り上げて食べさせない**  
大人がやっているのを見て、小さな子がまねをすることもあるので気をつけて。

**★車の中での飲食にも注意**  
大きな揺れや急停車で誤嚥するおそれがあります。特にピーナッツやグミなどは与えないようにしましょう。

**★万が一、誤飲等の事故が起こった場合の対応について、母子手帳などで確認しておきましょう。**

発行：(学)松徳学園・認定こども園

## みこも幼稚園

〒193-0845 東京都八王子市初沢町1310

<http://www.mikromo.net>

042-661-8181